

外科用イメージ装置

(移動型デジタル式汎用一体型
X線透視診断装置)

主に手術室で使用する装置の事をいいます。

手術中にリアルタイムで骨や血管などの情報を画像として表示することができ、手術には欠かせません。

最近では2DだけではなくCTを撮影出来る装置もあり、3D表示をする事で手術精度の向上・時間短縮に貢献しています。

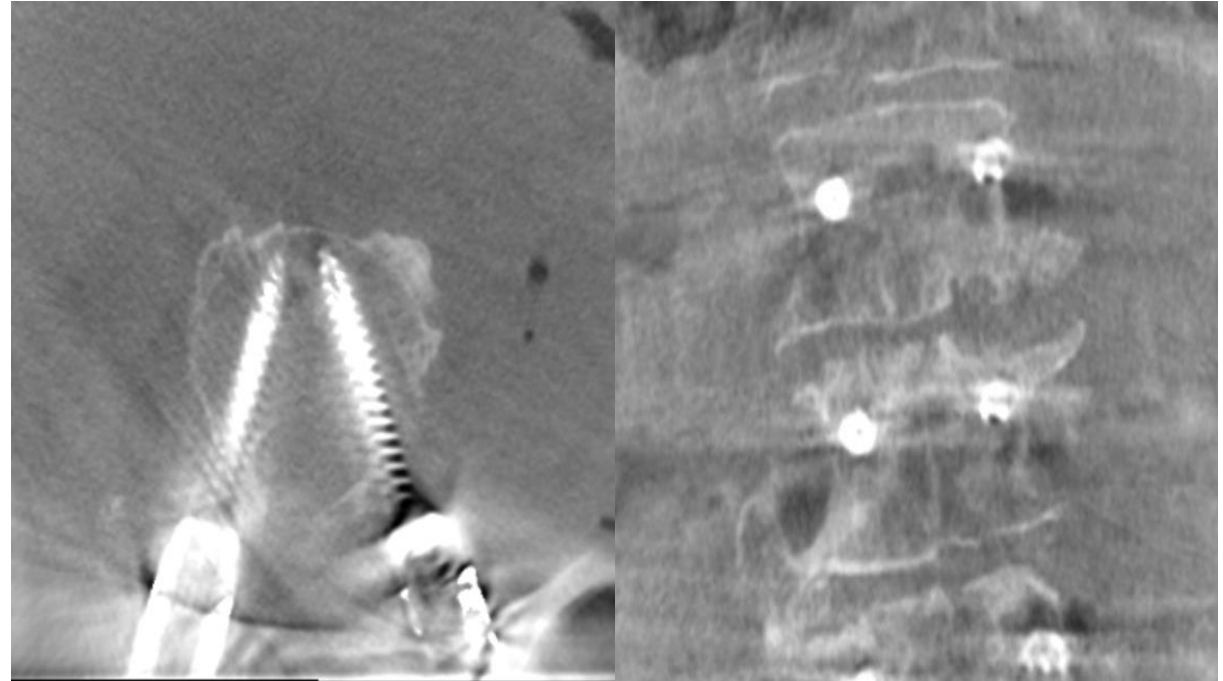
MIS(Minimally Invasive Surgery: 最小侵襲手術)を強くサポートしています。



特色①3DCT撮影

従来の2D画像では正確な情報を得ることが難しかった部位でも、高精細な3D画像で立体的な位置の把握が可能になりました。

骨の解剖学的構造やインプラント、デバイスの視認性も高まり、従来では表現できなかった高品質な画像を提供します。



特色②四肢専用装置

従来の装置よりコンパクトになり、場所を取らず手術中もすぐに移動可能でワークフローの向上を実現しています。

さらにX線の量を低減でき、被ばく線量を抑えることができます。

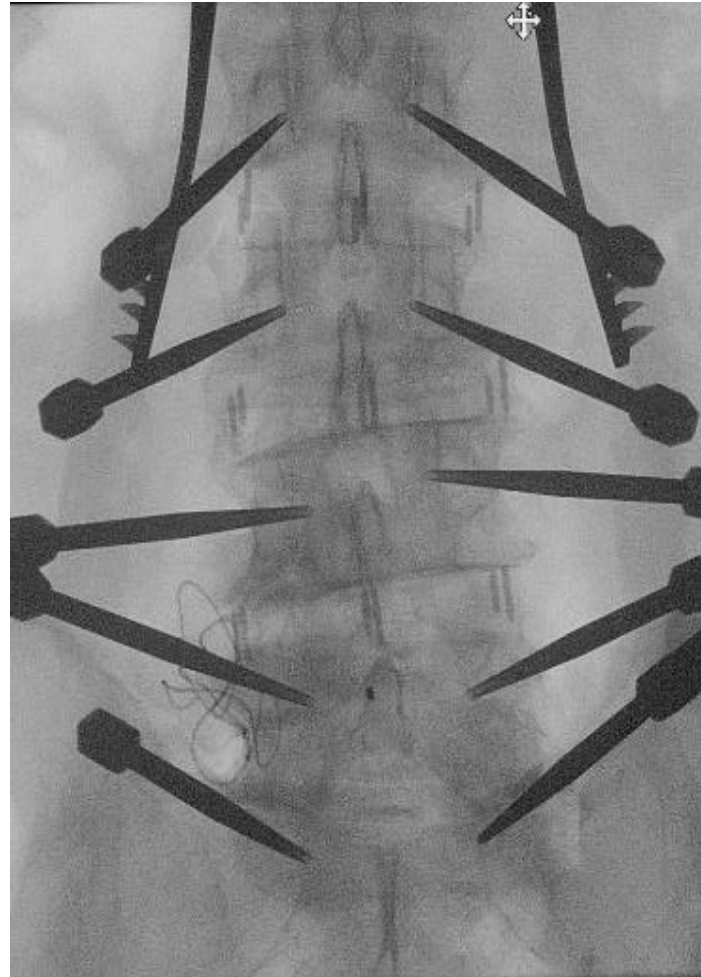


特色③整形外科

・骨・関節の骨折・変形による手術

インプラント、デバイススクリューといった固定具を入れる事がありますが、X線透視を見ながら挿入する事で正確性が増します。

さらにCT撮影を行う事で精度の高いサポートを行っています。



特色④外科

・肝臓の区域切除術

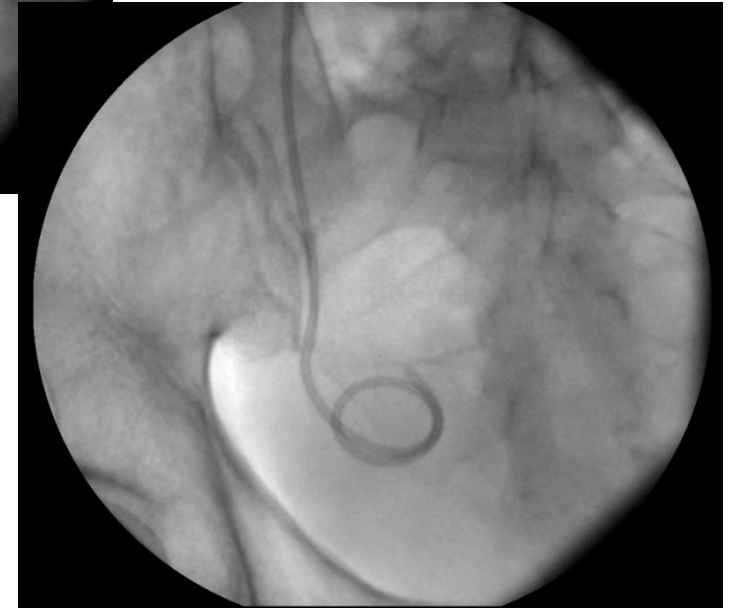
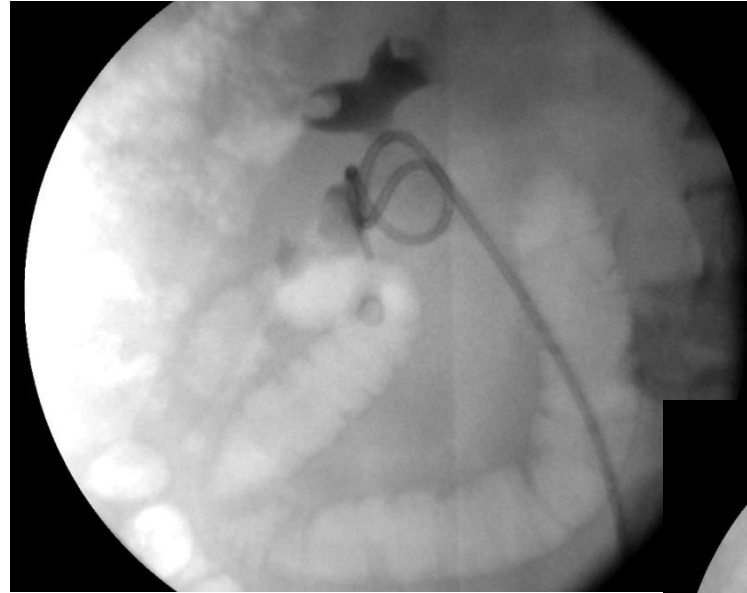
X線透視を見ながら胆道造影検査を行い、切除範囲の確認を行っています。



特色⑤腎泌尿器外科

・TUL(経尿道的尿路結石破砕術)

腎盂・尿管内の結石を破砕しX線透視を見ながら尿管ステントを留置する際に使用しています。



稼働概要

移動型デジタル汎用一体型 X線透視診断装置

SIEMENSE社製 2台

- CiosSpin (CT撮影可能)
- CiosSelectFD

GE社製 1台

- OEC MiniViewMAX

FUJIFILM社製 1台

- DR CALNEO CROSS

→2月導入予定

イメージ装置使用手術

- 整形外科
- 外科
- 腎泌尿器外科

オペ室放射線技師

男子7名で対応中

患者さん、Dr・看護師・その他
従事者のため被ばく低減にも
取り組んでいます